

相詫申書付之事

一川西廿五日御講仏像砂子坂西徳寺

寺柄ニ付御預り御守護申居候処先住

西徳寺嘉永二未年乱心ニ而御講仏像御

裏江楽書致シ廿五日講中一流了簡被成

かたく御坊所江御達シニ及ヒ奉恐入候右ニ付

講外ニ相成奉恐入候西徳寺江も入寺相成不申

其上且頭駒屋又三郎も申訳相立かたく恐入候事

ニ付数度相詫ヒ仕候得共御講衆中御聞

入無御座誠迷惑至極ニ付此度小尉甚太夫殿

内山梨子清左衛門殿相頼ミ御一同へ詫入候ニ付御

聞済被成下事済ニ相成難有仕合奉存候

依之以後西徳寺住職へハ申ニ不及駒屋又太郎

代々廿五日講衆中江ハ御講仏様之義ニ付而ハ

一言之義申出間敷候且又聊ニ而も不心得之義

以来御座候時ハ此書付を以テ御坊所御本殿江

御達シ何様之御咎蒙り候而も一言恨も申間敷候

依之此以後ハ是迄之通りニ被成下御頼申上候

為後日之詫書一札御講中江相渡シ可申候以上

(印)

文久三癸九月日

砂子坂西徳寺代

内山梨子村

清左衛門 (印)

砂子坂又三郎代

小尉村

甚太夫 (印)

川西

廿五日講衆中江